

徳島大学ラグクロス部

起源はインディアンの格闘技・・・自分たちで作り上げていく新しいスポーツ



地上のアイスホッケー！

今ではカナダの国技でもあり、多くの国に広がっている「ラグクロス」の起源は、なんと約3000年以上前の北米インディアンの格闘技でした。なのになぜか「lacrosse」はフランス語で、司教のもつ杖を連想して名付けられました。

日本では1986年に慶應義塾大学に初めてのチームが誕生しました。新しいスポーツのため、プレーヤーによるアマチュアリズムとボランティア精神により自主運営による活動を続けてきて今日に至っています。

最近では雑誌などでも紹介される機会も増え、男子はその精悍な姿と、女子はかわいいユニフォームなどにより人気も上昇中ですが、先に紹介しましたようにもとは格闘技。なかなか激しいスポーツでもありません。

どんなスポーツかと言えば、例えばアイスホッケー。ルールもよく似ています(男女で少し違います)。競技コートの広さはサッカーぐらいでしょうか。地上のアイスホッケーとも呼ばれているそうです。確かにプロテクターやヘルメットを装着する男子の場合は格好もアイスホッケーに似ています。

対して女子はミスカートが主流。頭にはバンダナやはちまきなどチー

ムのカラーが出せますから、そのおしゃれなスタイルも人気です。

自分たちで運営する充実感！

徳島大学にラグクロス部が結成されたのは1995年。全て学生たちで運営、手作りで活動してきました。

現在(4月)男子はマネージャーを含めて15名。女子は26名。フィールドで競技するのは男子が10名、女子12名です。男子の場合は激しい競技のため交代要員は不可欠。その点で部員数が少ないことに苦労しているようです。

なによりも大学に来て初めてラグクロスを実際に見る人ばかりで、特に男子の場合、思った以上の激しさにリタイヤする人もいますが、キャプテンの菊原さんは、

「自分を表現できるスポーツ。自分の力で可能性を開いていけるんです。全て自分たちで作っています」という実感もあります」

女子キャプテンの木下さんも、「チーム内の戦術、たとえば攻め方にしても守り方にしてもポジションにしても、自分達で話し合ってみる意見で決めているからこそ、勝ったときの喜びは、なんともいえない快感で、個人競技では味わえない魅力があります。新しいスポーツなのでまだまだ発展していますから」

と、その魅力を語ってくれました。厳しくてもその面白さが分かればやめられないようです。

合宿やミーティングなどは中四国単位となるので、時間や費用のやりくりがたいへんですが、その分やりがいもあるのです。試合の企画など、すべて中四国地区の学生が協力して運営。試合ではライバルでもある他大学の人と協力してひとつのことをやり遂げる喜び、ともに助け合う仲間であることが、大学ラグクロスのもうひとつの魅力です。

男女とも実力をつけて、まずは中四国での上位進出をめざしてがんばっています。

入部はまず練習を見学してみてください。男子は毎週火曜(16時)木曜(15時30分)、土曜(9時30分)、夏休み(9時30分)、女子は木曜(15時30分)、土曜(9時30分)、時間はそれぞれ開始時間です。



女子キャプテン 木下 瀬里奈

きのしたせりな
総合科学部
人間社会学科3年



尋ね人

中西薫さんを探しています！

工学部建設棟地点の発掘調査



写真1

埋蔵文化財調査室は、2003年5月から7月まで、常三島キャンパスの工学部建設棟地点を発掘調査しました。現在、改修が終わり、綺麗になった建築棟の北側にある新設された実験棟が調査地点になります。常三島キャンパスは、江戸時代の徳島城下町遺跡の上にあります。17世紀前半には徳島藩の役所の一つである船置所が置かれ、阿波水軍の基地となっていました。その後、船置所は安宅へ移転し、埋め立てによって中下級武士の武家屋敷が立ち並びようになっていきます。

安政年間(1854~1859)に描かれた『御山下島分絵図』(個人蔵)に示された位置とほぼ同一の位置に、武家屋敷の境界を示す屋敷境溝が発見されました。この屋敷境溝は通常2条が1単位となり、初期の溝は狭く深いのですが、時期が新

しくなるにつれて

て広く浅い溝へと変遷していきます。屋敷境溝からは大量の瓦と陶磁器類が出



写真2

捨て場ともなっていたことを示しています(写真1・2)。また、屋敷地内の建物跡を発見することは稀なのですが、今回は19世紀代の建物の礎石を置いたと思われる柱穴も発見しました。

明治時代に入って、武家屋敷は取り壊され、常三島帯は水田になります。その後、1899(明治32)年に総合科学部の地へ徳島師範学校が移転してきて、1923(大正11)年には工学部の地に徳島高等工業学校が開設されます。1945(昭和20)年7月4日の徳島空襲では、

確認しました。

この一帯も焼土と化したようで、実際に調査地点では焼夷弾と焼けた瓦などを処分した廃棄用の穴を

大学工学部となります。したがって、この筆洗は1922年から1944年までの間に中西薫さんによって使用された可能性が高いのです。そこで、工学部や工業会へ伺い、調べてもらったのですが、卒業生名簿に該当する方はおられませんでした。中西薫さんの消息をご存知の方はぜひお教え下さい。



写真3